

グローバル人材育成プログラム

岩本 彩里
Ayari IWAMOTO
数理情報学科 3年

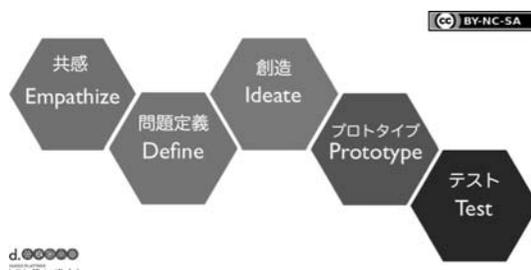


図1 デザインシンキングの5ステップ

1. はじめに

2018年8月22日(水)から9月10日(月)にかけてアメリカ、カリフォルニア州のサンフランシスコに企業見学、企業実習を含むグローバル人材育成プログラムに参加した。具体的なプログラムの日程を表1に示す。プログラムに参加した目的、研修内容とそこで学んだことここに記す。

表1 プログラムの日程

8月22日(水)	出国, サンフランシスコツアー
8月23日(木)	シリコンバレーツアー
8月24日(金)	企業見学, キャリアセミナー
8月25日(土)	シリコンバレー企業ツアー
8月27日(月) 9月7日(金)	インターンシップ
9月10日(月)	帰国

2. 参加目的

参加した目的は主に3つある。1つ目は姉が学生の時に留学などで海外に行くことが多く、その姿に憧れて海外ではなく勉強の一環として行きたいと思ったからである。2つ目は異国の文化に触れ、日本との違いを感じる。3つ目は自分を見つめなおすことである。

3. 研修内容

3.1 シリコンバレーツアー

シリコンバレーツアーでは AutoDesk で実際に CAD を使い椅子をデザインしてみたり、Intel や Google の社内を見学したりした。スタンフォード大学を実際に通っている方に案内していただいたり

した。その中で印象に残っているのは SAP の企業見学の際にそこで働いている日本人の方にお話を伺ったことだ。日本の企業は衰退しているということに衝撃を受けた。SAP はドイツの企業であるが、ドイツと日本の企業はとてもよく似ていて、あたらしいことよりも今までやってきたことを大切に、安定を求める傾向があるようだ。しかし、そんなドイツ企業がシリコンバレーに進出し、新たな開発をやっているようだ。そして、近年伸びている企業になった。新たなことをするためにシリコンバレーに会社をつくり、ドイツでは、今までやってきたことを続けていた。そしてある程度形になったらドイツに戻しドイツで広げるというローテーションだ。そこで取り組みとしてデザインシンキングというものがある。その流れを図1に示す。この中で一番大切なのは問題定義である。解決しなければならない方法、問題が間違っていたらなにも解決にはならないということは当たり前かもしれないがとても大切なことだと感じた。

3.2 ホームステイ

過去にホームステイをしたことがなかったが、アナザースカイなどを見てとても憧れていたのでワクワクしながら1日目を迎えた。中国人の夫婦のお家にお邪魔させていただいた。私のほかに中国人の女の子が2人ホームステイしていた。初日に家のルールを説明された。シャワーは10分程度、自分の部屋では飲食禁止、ごみの分別など説明された。鍵を貸すためには200ドルのデポジットが必要だと言わ

れ、驚いた。信用がないのはわかるが少し困惑した。夜ご飯はいつも作ってくれた。白いご飯の上に炒め物がのっている形である。ホストファミリーと毎晩一緒に食べた。基本的にとてもよくしてくれたが、私の英語力が乏しいせいであまりうまくコミュニケーションがとれなかったことがすこし心残りではあるが、とてもいい経験となった。

3.3 インターンシップ

今回のインターンシップでは日米バイリンガルスクールのABC pre school というところにかかせてもらった。業務内容は掃除や、先生たちの補助、子どもたちと遊んだりすることだった。母が日本人で、父が外国人というミックスの子供が多かった。子どもたちは基本的に日本語が話せる子が多く、日本語で会話することが多かったが、祖母が日本の方で、通わせている家庭があり、その子は英語しか話せない子もいた。子どもたちはとても明るく素直だったので2週間だけだったが楽しく過ごせた。日本語を話す子も父と話すときや、英語しか話せない子と会話するときは英語を話すので幼い頃の可能性は無限大なんだなと感じた。今、日本語が話せても幼稚園や小学校に行くとほとんどが英語になってしまうので日本語を維持することが大変なんだそうだ。そのためAfter school というのをやっていて、日本語を忘れないためにも「楽しい放課後」というテーマで補習校のようなかたちで実施していた。そこでは、ひらがな、カタカナ、漢字を習っていく。私も少し参加させていただいたが、やはり子どもたちはほとんど英語で会話していたため、あまりうまくコ

ミュニケーションがとれなかったが、ひらがななどの字を教えることが出来たため、楽しくできた。生徒たちに折り紙で鶴や手裏剣を折ってほしいと頼まれたり、とても楽しかった。日本が大切にしていると感じたのは、「いただきます」や「ごちそうさま」「ありがとう」などの言葉だと感じた。日本の子どもたちもバイリンガルが増えればいろいろな可能性や選択肢が増えると思うのでそのような子どもが増えればいいなと感じた。

4. おわりに

このプログラムに参加してたくさんのことを学ぶことが出来た。“慣れ”というものはいい意味でも悪い意味でもすごいものだと感じた。慣れがあるからこそ安心して楽しむことが出来るが、甘えなどが生じる可能性が高いと感じた。また、私はまだまだ未熟な人間であり、これからいろんな経験を積むべきであると感じた。挑戦できるチャンスがあるなら何事にも挑戦していきたいと感じた。そして、これから広い世界をもっと知りたいと感じたので英語力を高める必要である。ホストファミリーをはじめ、3,4歳の子どもとも正しい英語でテンポよく会話することが出来なかったり、伝えたいことを伝えきれなかったのもっと英語力を高めたいと感じた。

最後に私はこのプログラムを通して日本の文化や良さを詳しく外国の方に伝えることが出来、異文化を楽しめる人がグローバル人材ではないかと考える。